

# 2020年度 第2四半期 決算説明会

2020年11月5日

三菱ガス化学株式会社

証券コード：4182

## 目次

1 | 新型コロナウイルスの影響

2 | 2020年度 第2四半期 決算概要

3 | 2020年度 通期 業績予想

4 | セグメント別 業績概要

5 | トピックス

1 | 新型コロナウイルスの影響

2 | 2020年度 第2四半期 決算概要

3 | 2020年度 通期 業績予想

4 | セグメント別 業績概要

5 | トピックス

## 新型コロナウイルスの影響

- 新型コロナウイルスの感染リスク低減のため、引き続き在宅勤務などを活用しつつ、従業員とその家族、お客様をはじめとするステークホルダーの安全確保を最優先に事業活動を継続中。
- 業績への影響：
  - ・ 上期は自動車向け製品等で需要が低迷。下期に向けて回復していく予想も、世界経済の回復ペースは期初時点の見通しよりも緩やかであり、下期のマイナス影響は期初予想に比べてやや大きくなる見通し。
  - ・ 影響額（営業利益）：期初時点 約▲100億円 → 今回見通し 約▲80億円

### <新型コロナウイルスによる影響（上期・下期別）>

#### 上期実績

- 自動車向け製品等の需要減退により、エンジニアリングプラスチック、発泡プラスチック（JSP）、メタキシレンジアミン(MXDA)などで販売数量が減少。
- 上記マイナス影響があったものの、旅費など一般管理費の減少もあり、期初予想に比べ影響額は小。

#### 下期見通し

- 自動車向け需要の回復等を見込み、エンジニアリングプラスチック、JSP、MXDA等は上期に比べ改善を予想。
- 世界経済の回復ペースは期初時点の見通しよりも緩やかであり、下半期の影響額は期初予想に比べやや大きくなる見通し。

1 | 新型コロナウイルスの影響

2 | 2020年度 第2四半期 決算概要

3 | 2020年度 通期 業績予想

4 | セグメント別 業績概要

5 | トピックス

## 2020年度 第2四半期 業績のポイント

- ◆ 減収、営業減益。持分法損益の改善等により、経常利益は増益。税金費用の減少※もあり、当期利益段階で増益幅が拡大。  
※過年度に計上した関係会社株式評価損の損金算入等による税金費用の減少（約30億円）
- ◆ 営業利益：
  - (+) ①光学樹脂ポリマー、電子材料の販売数量増、②原燃料安、③販売費及び一般管理費の減少
  - (-) ①コロナ影響、②汎用製品の市況下落
- ◆ 経常利益：サウジアラビア合併事業での一過性費用（78億円）剥落等により持分法損益が改善し、増益
- ◆ 前回予想比：基礎化学品を中心に販売数量が下振れたものの、販売費及び一般管理費が前回予想比で減少したこと等により、各利益段階で上振れ
- ◆ 配当：中間35円（前年および前回予想と同額）

## 2020年度 第2四半期 業績サマリー

減収・営業減益も、持分法損益の改善等で経常利益以下は増益

【単位：億円】

	2020年度 2Q累計	2019年度 2Q累計	増 減		2020年度 2Q累計 前回予想*
			金額	%	
売上高	2,666	3,033	▲367	▲12.1%	2,700
営業利益	143	160	▲16	▲10.4%	120
(持分法損益)	(17)	(▲38)	(55)	-	(5)
経常利益	165	116	48	41.5%	120
税金等調整前四半期純利益	177	144	33	23.3%	130
親会社株主に帰属する四半期純利益	142	81	61	75.0%	90
* 2020年8月6日公表					
一株当たり四半期純利益(円/株)	68.54	38.45			
為替レート(JPY/USD)	107	109			

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

## 2020年度 第2四半期 営業外損益・特別損益

【単位：億円】

	2020年度 2Q累計	2019年度 2Q累計	増 減
<b>営業外損益</b>	<b>21</b>	<b>▲43</b>	<b>65</b>
持分法による投資損益	17	▲38	55
金融収支	16	14	1
為替差損益	▲0	▲9	8
その他	▲10	▲10	▲0
<b>特別利益</b>	<b>15</b>	<b>30</b>	<b>▲15</b>
投資有価証券売却益	12	15	▲2
固定資産売却益	2	-	2
段階取得に係る差益	-	10	▲10
受取保険金	-	5	▲5
その他	-	-	-
<b>特別損失</b>	<b>▲3</b>	<b>▲3</b>	<b>0</b>
損害補償損失	▲3	-	▲3
事故関連損失	-	▲1	1
固定資産処分損	-	▲1	1
その他	-	-	-

### ● 持分法損益

メタノール+63（前年 一過性費用+78）  
エンジニアリングプラスチック▲12等

### ● 投資有価証券売却益

政策保有株式の売却等

（注）本表の増減は対損益増減を示しております。



## 2020年度 第2四半期 貸借対照表

【単位：億円】

科目	2020年 9月末	2020年 3月末	増減
<b>流動資産</b>	<b>3,663</b>	<b>3,586</b>	<b>76</b>
現金預金	1,114	782	332
売掛債権	1,206	1,412	▲206
棚卸資産	1,156	1,147	8
その他	185	243	▲57
<b>固定資産</b>	<b>4,162</b>	<b>4,130</b>	<b>31</b>
有形固定資産	2,388	2,398	▲9
無形固定資産	102	105	▲3
投資その他の資産	1,671	1,626	45
<b>資産合計</b>	<b>7,825</b>	<b>7,717</b>	<b>108</b>

科目	2020年 9月末	2020年 3月末	増減
<b>負債</b>	<b>2,263</b>	<b>2,235</b>	<b>27</b>
買掛債務	603	707	▲103
有利子負債	975	747	228
その他	684	781	▲96
<b>純資産</b>	<b>5,562</b>	<b>5,481</b>	<b>80</b>
株主資本	5,014	4,943	71
その他包括利益累計額	▲1	▲17	16
非支配株主持分	549	556	▲7
<b>負債・純資産合計</b>	<b>7,825</b>	<b>7,717</b>	<b>108</b>
自己資本比率	64.1%	63.8%	

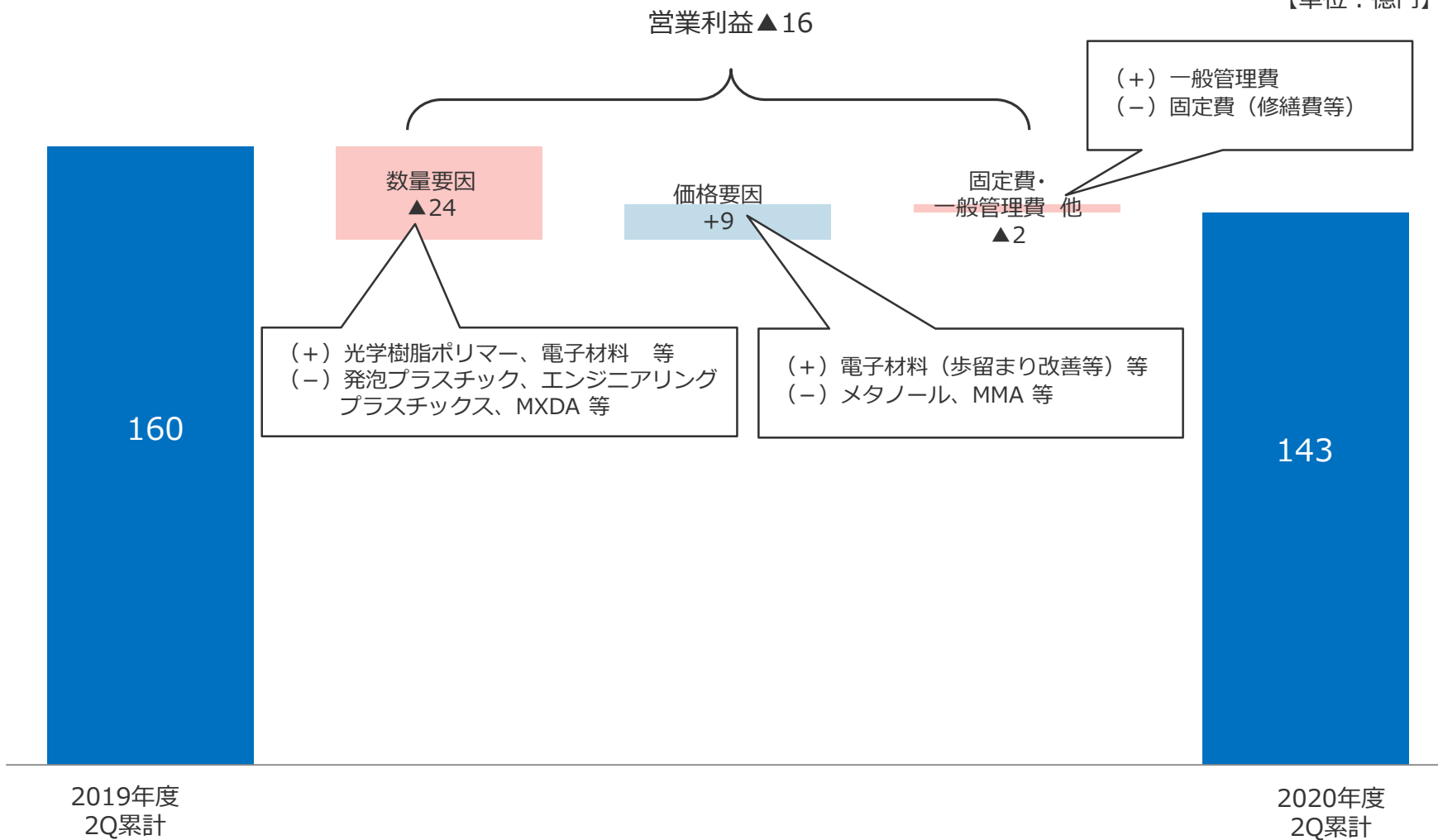
## 2020年度 第2四半期 キャッシュフロー計算書

【単位：億円】

	2020年度 2Q累計	2019年度 2Q累計	増減
営業活動によるキャッシュフロー	330	386	▲55
投資活動によるキャッシュフロー	▲165	▲219	53
フリーキャッシュフロー（差引）	165	167	▲2
財務活動によるキャッシュフロー	148	▲235	383
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲12	▲18	5
現金及び現金同等物の増減額（合計）	300	▲86	387
現金及び現金同等物の期首残高	700	803	▲103
連結子会社増加に伴う現金増加高	-	2	▲2
現金及び現金同等物の期末残高	1,000	719	281

# 2020年度 第2四半期 営業利益 増減要因

【単位：億円】



1 | 新型コロナウイルスの影響

2 | 2020年度 第2四半期 決算概要

3 | 2020年度 通期 業績予想

4 | セグメント別 業績概要

5 | トピックス

## 2020年度 通期 業績予想のポイント

- ◆ 対前回予想：営業利益は前回予想と同額、経常利益+40億円
- ◆ 営業利益：（予想比）上期+23億円、下期▲23億円  
（+）販売費及び一般管理費の減少（上期）等  
（-）全般的な販売見通しの引き下げ 等
- ◆ 経常利益：（予想比）持分法損益+40億円（メタノール+30（市況見直し、税金還付等）、エンジニアリングプラスチック+10 等）
- ◆ 期末配当（予想）：35円（前年および前回予想と同額）

## 2020年度 通期業績予想

持分法損益の上振れ等で、経常利益以降は上振れ

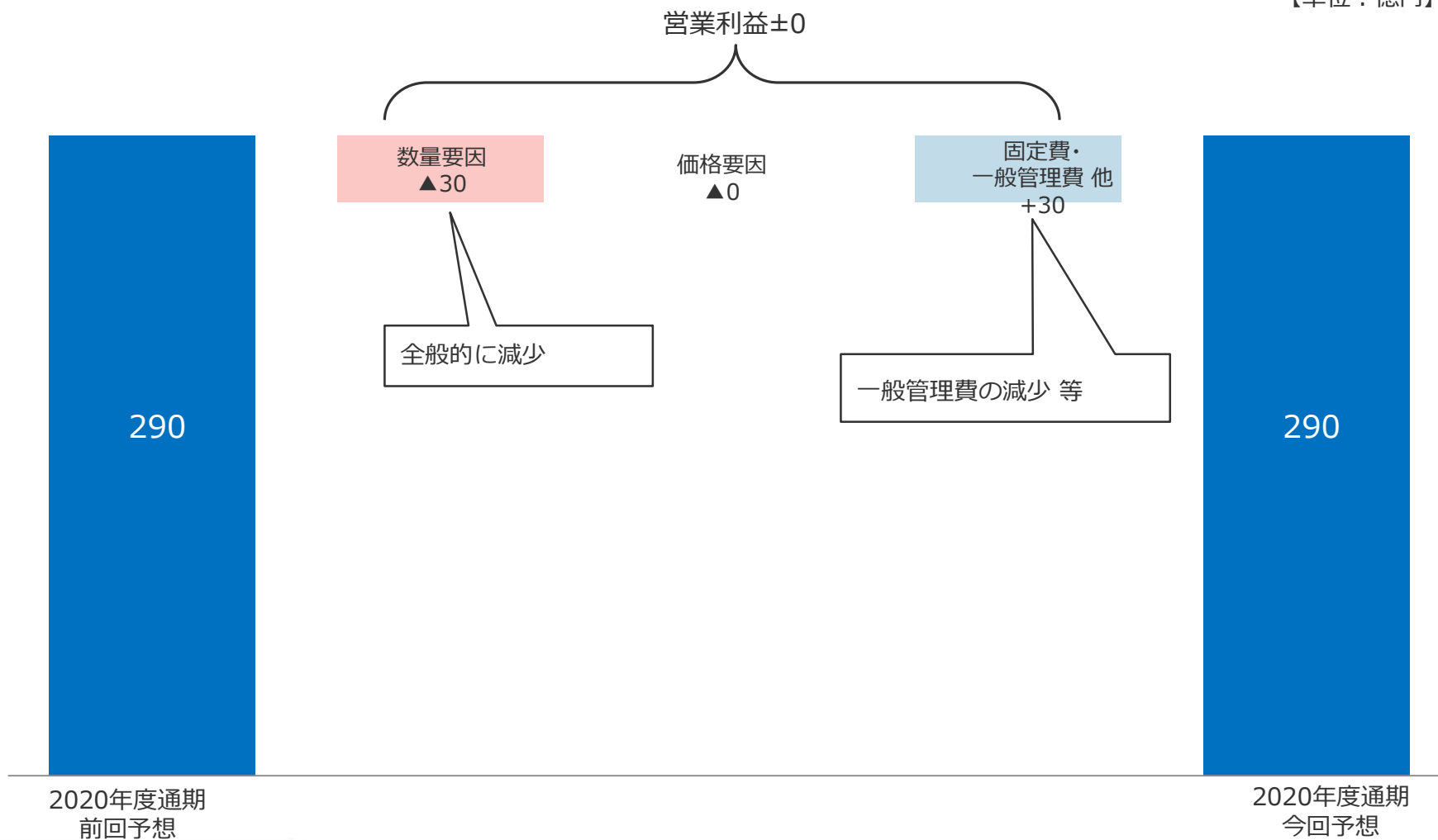
【単位：億円】

	2020年度 今回予想	2020年度 前回予想*	増 減		2019年度 実績
			金額	%	
売上高	5,500	5,600	▲100	▲1.8%	6,133
営業利益	290	290	—	—	342
(持分法損益)	(30)	(▲10)	(40)	—	(▲12)
経常利益	300	260	40	15.4%	311
税金等調整前当期純利益	310	270	40	14.8%	343
親会社株主に帰属する当期純利益	240	170	70	41.2%	211
一株当たり当期純利益(円/株)	115.39	81.74			100.50
R O E ( % )	4.8	3.5			4.3
為替レート(JPY/USD)	106	106			109

\* 2020年8月6日公表

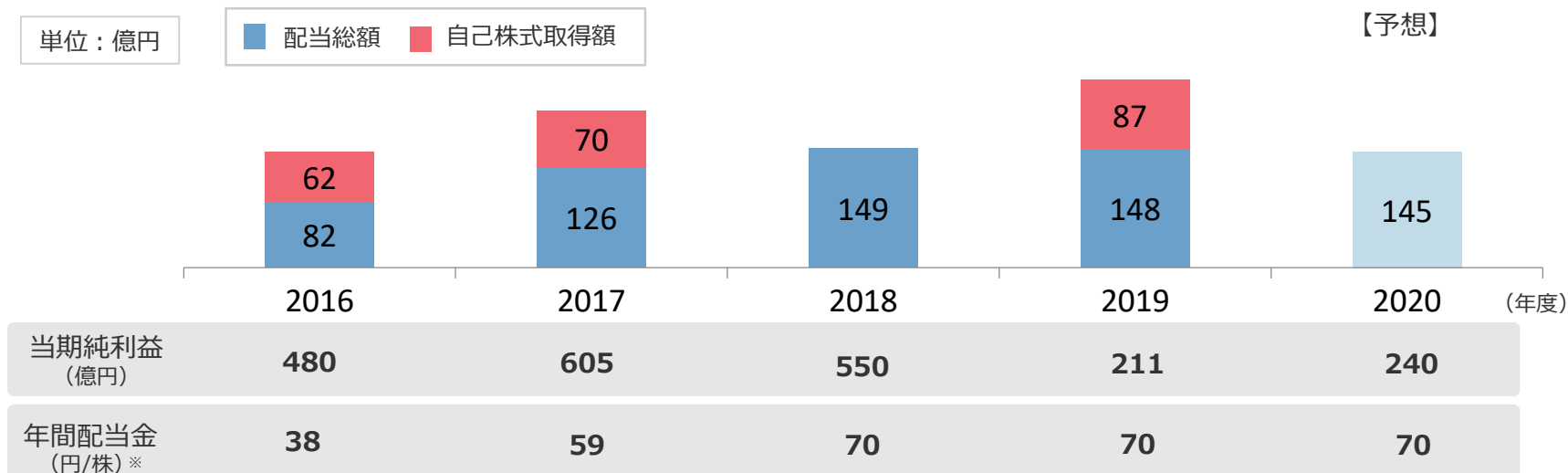
## 2020年度 通期 営業利益予想 増減要因（対前回予想）

【単位：億円】



## 株主還元方針・株主還元

- 企業価値の向上を経営上の最優先課題と位置付け
  - 配当は、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮して決定
  - 内部留保の水準と株主還元の水準を勘案して、自己株式の取得も機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図る
- 安定配当の継続を基本とする上記方針に基づき、2020年度の配当は70円を予想



※当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しています。  
配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しています。



1 | 新型コロナウイルスの影響

2 | 2020年度 第2四半期 決算概要

3 | 2020年度 通期 業績予想

4 | セグメント別 業績概要

5 | トピックス

## セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

【単位：億円】

	2019年度実績			2020年度（前回予想）※1			2020年度（実績/今回予想）			2020年度 中計目標	※2
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期	
<b>売上高</b>	<b>3,033</b>	<b>3,099</b>	<b>6,133</b>	<b>2,700</b>	<b>2,900</b>	<b>5,600</b>	<b>2,666</b>	<b>2,833</b>	<b>5,500</b>	<b>7,500</b>	
基礎化学品	1,814	1,823	3,638	1,460	1,558	3,018	1,412	1,548	2,960	—	
機能化学品	1,250	1,308	2,559	1,263	1,329	2,592	1,240	1,312	2,552	—	
全社/調整	▲ 31	▲ 32	▲ 64	▲23	13	▲10	13	▲26	▲13	—	
<b>営業利益</b>	<b>160</b>	<b>182</b>	<b>342</b>	<b>120</b>	<b>170</b>	<b>290</b>	<b>143</b>	<b>146</b>	<b>290</b>	<b>650</b>	
基礎化学品	71	40	112	6	49	55	4	34	39	—	
機能化学品	100	154	255	133	132	265	153	125	278	—	
全社/調整	▲ 12	▲ 13	▲ 25	▲20	▲11	▲31	▲14	▲13	▲27	—	
<b>経常利益</b>	<b>116</b>	<b>194</b>	<b>311</b>	<b>120</b>	<b>140</b>	<b>260</b>	<b>165</b>	<b>134</b>	<b>300</b>	<b>800</b>	
基礎化学品	9	38	47	5	21	26	15	27	43	—	
機能化学品	117	164	281	131	128	259	159	117	276	—	
全社/調整	▲ 10	▲ 7	▲ 18	▲17	▲9	▲26	▲9	▲10	▲19	—	

※1 2020年8月6日公表

※2 2018年5月11日公表 中期経営計画「MGC Advance2020」 経常利益は2019年5月13日修正後

## 【参考】：旧セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

【単位：億円】

	2019年度実績			2020年度（前回予想）※1			2020年度（実績/今回予想）			2020年度 中計目標
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
<b>売上高</b>	<b>3,033</b>	<b>3,099</b>	<b>6,133</b>	<b>2,700</b>	<b>2,900</b>	<b>5,600</b>	<b>2,666</b>	<b>2,833</b>	<b>5,500</b>	<b>7,500</b>
天然ガス系化学品	791	846	1,637	646	710	1,357	645	702	1,348	2,100
芳香族化学品	1,031	979	2,011	813	848	1,661	802	809	1,612	2,400
機能化学品	994	1,025	2,020	976	1,065	2,041	966	1,035	2,002	2,400
特殊機能材	262	286	548	286	264	550	290	258	549	600
全社/調整	▲46	▲38	▲84	▲23	13	▲10	▲39	26	▲13	0
<b>営業利益</b>	<b>160</b>	<b>183</b>	<b>342</b>	<b>120</b>	<b>170</b>	<b>290</b>	<b>143</b>	<b>146</b>	<b>290</b>	<b>650</b>
天然ガス系化学品	▲5	7	1	▲24	0	▲24	▲26	▲6	▲33	70
芳香族化学品	77	34	111	31	49	80	31	40	72	230
機能化学品	80	118	199	90	106	196	103	92	196	300
特殊機能材	20	36	56	42	26	68	50	32	82	60
全社/調整	▲12	▲13	▲25	▲20	▲11	▲31	▲14	▲13	▲27	▲10
<b>経常利益</b>	<b>116</b>	<b>197</b>	<b>311</b>	<b>120</b>	<b>140</b>	<b>260</b>	<b>165</b>	<b>134</b>	<b>300</b>	<b>800</b>
天然ガス系化学品	▲64	7	▲57	▲21	▲21	▲42	▲15	▲6	▲21	150
芳香族化学品	73	31	104	26	42	68	30	34	64	220
機能化学品	94	129	223	86	99	186	106	85	191	370
特殊機能材	23	35	58	44	28	73	52	31	84	70
全社/調整	▲10	▲7	▲18	▲17	▲9	▲26	▲9	▲10	▲19	▲10

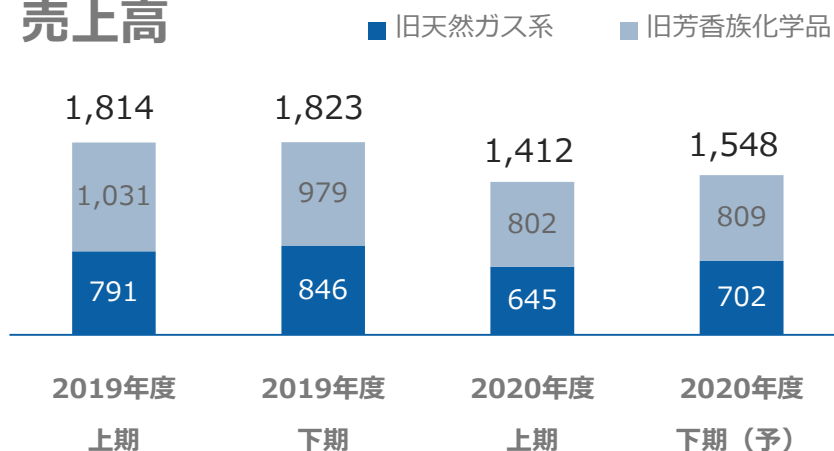
注) 新セグメントとの比較のために簡便的に組み替えた参考値となります。

※1 2020年8月6日公表

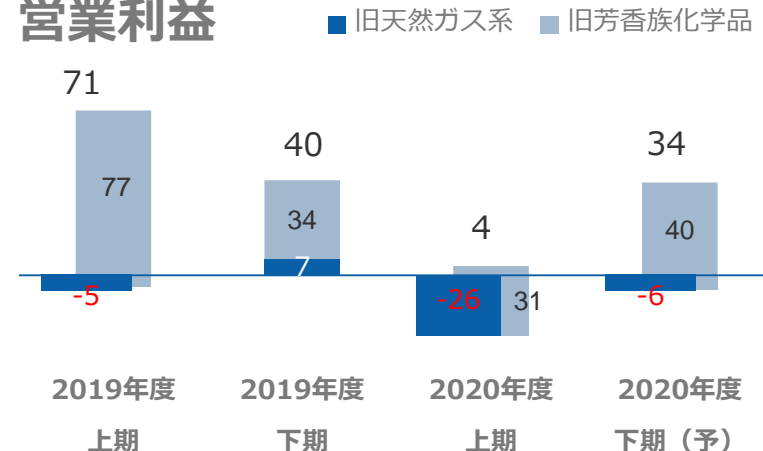
※2 2018年5月11日公表 中期経営計画「MGC Advance2020」 経常利益は2019年5月13日修正後

## 基礎化学品

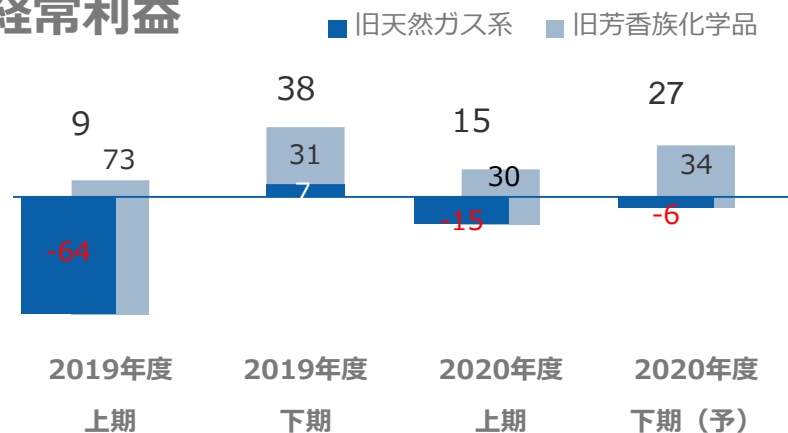
### 売上高



### 営業利益



### 経常利益



#### 上期実績（前年同期比）

- ・コロナ影響による販売低迷、汎用製品の市況下落等により減収、営業減益。経常利益は持分法損益の改善で増益。

#### 下期予想（上期実績比）

- ・第4四半期に水島工場で大定修があるものの、コロナ影響の緩和による販売数量の回復等を見込み、増収増益の見通し。

注) 旧セグメント間取引の消去があるため、旧セグメントの合計値は新セグメント（基礎化学品）の数値と一致しません。

## 基礎化学品～事業動向～

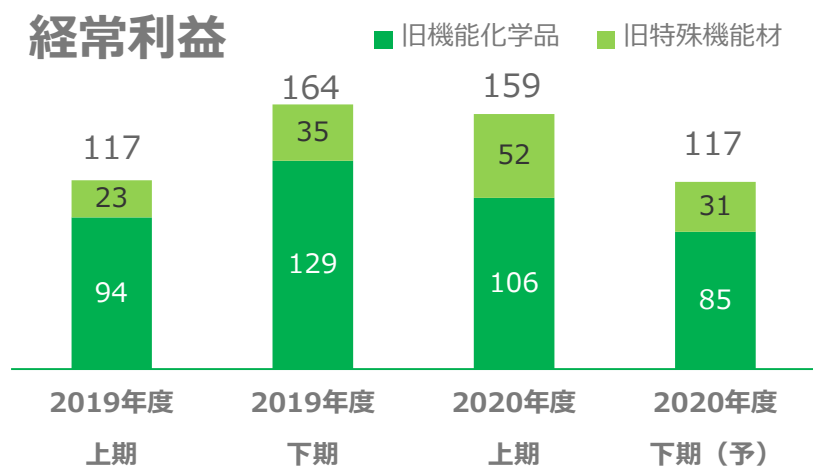
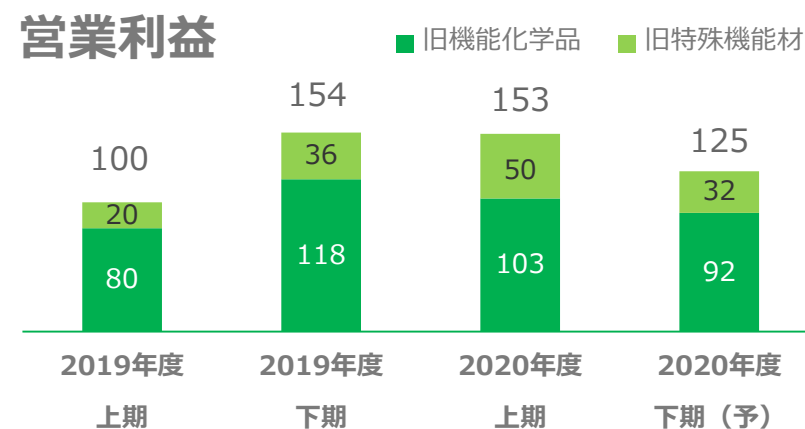
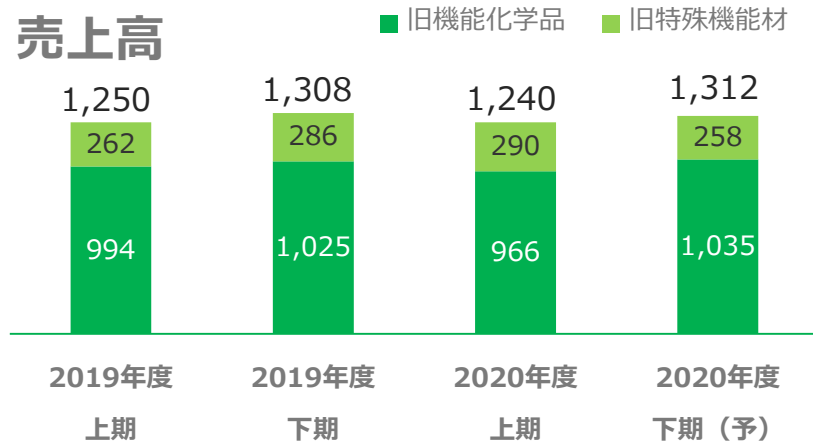
### 2020年度 上期実績（前年同期比）

- ◆メタノール：市況下落（19年度上期277ドル→20年度上期194ドル）等により減収。持分法損益は、前期に計上したサウジアラビア合併事業での一過性費用（78億円）剥落、同事業での税金還付（約18億円※）等により改善。  
※株式売却にかかる税金還付、及び出資比率変更に伴う税金費用見直しによるもの。
- ◆メタノール・アンモニア系化学品は、MMA系製品の市況低迷、修繕費用の増加などにより減益。
- ◆特殊芳香族化学品：芳香族アルデヒドの販売数量が増加したものの、コロナ影響で1Qに中国住宅向けの1,3-BACの需要が減少。自動車用途等でのMXDAの販売数量減少もあり、減益。
- ◆汎用芳香族化学品：高純度イソフタル酸(PIA)の市況は低水準で推移。販売数量減少もあり、減収減益。
- ◆発泡プラスチック（JSP）：食品・土木分野での需要増加などがあったものの、自動車分野での需要減少などで減収減益。

### 2020年度 下期予想（上期実績比）

- ◆メタノール：市況は上期比で上昇を見込む（上期：194ドル→下期：240ドル）も、上期の税金還付剥落等により上期並みの持分法利益を予想。トリニダード・トバゴのプロジェクトは完工し、試運転中。
- ◆特殊芳香族化学品：MXDAは硬化剤用途を中心に回復を見込む。1,3-BACも回復基調で、特殊芳香族化学品全体で販売数量が回復する見通し。
- ◆JSP：自動車分野での需要回復等を見込む。
- ◆水島工場は大型定修年に当たり、第4四半期に固定費が増加。

## 機能化学品



## 上期実績 (前年同期比)

- ・ コロナ影響を受け、エンジニアリングプラスチックの販売数量が減少したものの、光学樹脂ポリマーや半導体向け製品が好調に推移し、増益。

## 下期予想 (上期実績比)

- ・ コロナ影響を受けた製品の需要回復を見込むものの、上期に高水準で推移した電子材料の販売数量減少を見込むこと等から、減益を予想。

## 機能化学品～事業動向～

### ●2020年度 上期実績（前年同期比）

- ◆エンジニアリングプラスチック：コロナ影響で自動車向け等の需要が減退したことに加え、PC-BPAスプレッドが低水準で推移したこと等により減収減益。
- ◆光学樹脂ポリマー：スマホ複眼化の進展や昨年10月の生産能力増強により販売数量が増加し、増収増益。
- ◆電子材料：データセンターなどのICT関連需要の高まりや、5G対応スマホ向けアンテナ・イン・パッケージ基板向けの立ち上がりなどにより、増収増益。
- ◆脱酸素剤：コロナ影響で土産などの観光需要が減少したものの、輸出が堅調で前年同期並みの利益を確保。

### ●2020年度 下期予想（上期実績比）

- ◆無機化学品：半導体向け薬液の販売数量は上期比でやや弱含む見通し。
- ◆エンジニアリングプラスチック：PC-BPAスプレッドは低水準が続く見通しであるが、コロナで落ち込んだ需要の回復等により、収益改善を見込む。
- ◆光学樹脂ポリマー：スマホ複眼化、高機能化のトレンドが継続し、販売数量が増加する見通し。
- ◆電子材料：メモリー分野での顧客在庫調整の影響などにより、高水準であった上期に比べ販売数量は減少する見通し。

1 | 新型コロナウイルスの影響

2 | 2020年度 第2四半期 決算概要

3 | 2020年度 通期 業績予想

4 | セグメント別 業績概要

5 | トピックス



## グループ3商社を統合し、「三菱ガス化学トレーディング」が始動

- 2020年10月、グループ3商社「東京商会」「菱江化学」「菱陽商事」を統合、売上規模1,500億円超の「三菱ガス化学トレーディング」が始動。
- 従来3商社が個別に収集・活用していた市場・顧客情報やノウハウを一元化、MGCグループへ展開。幅広い製品を扱う商社として、総合力を発揮。
- 3商社が持つ互いの強みを融合することで、強固なマーケティング組織を形成。市場のニーズに応える商社として、単純合算以上の効果を実現していく。



アジア市場をメインターゲットに、  
海外15拠点で戦略的に事業を展開



基礎原料から顧客ニーズに合わせた高付加価値品  
まで幅広い製品を展開

## Appendix

## 参考： 各種指標（1）

【単位：億円】

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 (予)
設備投資額 (上期)	424 (224)	309 (177)	254 (138)	222 (103)	305 (149)	350 (137)	309 (139)	392 (186)	423 (224)	450 (158)
減価償却費 (上期)	277 (134)	230 (107)	235 (114)	237 (115)	267 (131)	256 (122)	270 (131)	274 (135)	295 (144)	310 (151)
研究開発費 (上期)	174 (88)	151 (72)	161 (80)	168 (80)	189 (92)	192 (96)	189 (95)	186 (91)	196 (94)	205 (98)
年度末人員(人)	5,216	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,276	8,954	9,279
一株当たり当期純利益 (円/株)*	55	▲35	66	192	154	222	281	257	101	115
総資産経常利益率 (%)	4.5	4.6	4.8	5.8	5.9	8.4	10.6	8.7	3.9	3.8
自己資本当期利益率 (%)	4.4	▲2.8	5.0	12.6	9.0	12.0	13.6	11.3	4.3	4.8
配当金(円/株)* (うち2Q末)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	28.0 (14.0)	32.0 (16.0)	38.0 (16.0)	59.0 (24.0)	70.0 (35.0)	70.0 (35.0)	70.0 (35.0)

\*当社は2016年10月1日に株式併合（2株→1株）を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

## 参考： 各種指標（2） 旧セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）

【単位：億円】

年度		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
設備投資額(※)	天然ガス系化学品	139	63	45	57	53	90	60	57	72
	芳香族化学品	47	57	23	40	106	105	113	146	150
	機能化学品	216	150	112	76	99	81	110	144	146
	特殊機能材	18	33	66	43	38	66	19	23	26
	その他	1	3	5	3	7	5	6	21	27
	<b>合計</b>	<b>424</b>	<b>309</b>	<b>254</b>	<b>222</b>	<b>305</b>	<b>350</b>	<b>309</b>	<b>392</b>	<b>423</b>
減価償却費	天然ガス系化学品	77	62	63	69	61	50	51	55	63
	芳香族化学品	77	58	41	39	82	85	85	87	95
	機能化学品	84	77	95	92	88	86	91	87	87
	特殊機能材	35	27	31	33	30	30	35	36	38
	その他	3	3	3	3	3	3	5	8	10
	<b>合計</b>	<b>277</b>	<b>230</b>	<b>235</b>	<b>237</b>	<b>267</b>	<b>256</b>	<b>270</b>	<b>274</b>	<b>295</b>

※固定資産計上ベース

## 参考： 各種指標 (3)

	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2020 年度中計
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期実績	下期予想	前提※2
為替(JPY/USD)	105	112	111	111	110	112	109	109	107	105	110
為替(JPY/EUR)	118	119	126	133	130	127	121	120	121	120	-
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	43	51	50	62	73	65	64	56	37	50	60
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	230	327	296	381	408	335	277	245	194	240	355
原料キシレン (US\$/MT)	660	680	650	725	845	730	705	640	420	490	705
ビスフェノールA (US\$/MT)※1	1,000 ~1,200	1,000 ~1,400	1,100 ~1,300	1,200 ~1,700	1,600 ~1,900	1,200 ~1,800	1,000 ~1,450	1,050 ~1,350	900 ~1,450	1,000 ~1,600	1,000 ~1,600
ポリカーボネート (US\$/MT)※1	2,200 ~2,500	2,400 ~2,800	2,500 ~2,900	2,900 ~3,900	2,700 ~3,800	2,100 ~2,800	1,900 ~2,250	1,650 ~2,000	1,500 ~2,150	1,700 ~2,500	2,300 ~3,200

※1 期間中の最小値および最大値を記載

※2 2018年5月 中期経営計画策定時の前提条件

### 感応度 (概算)

為替 (USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益5億円/年、経常利益9億円/年の減益 (増益)

為替 (EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益1億円/年、経常利益1億円/年の減益 (増益)

原油(Dubai) : 1\$/BBLの上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず

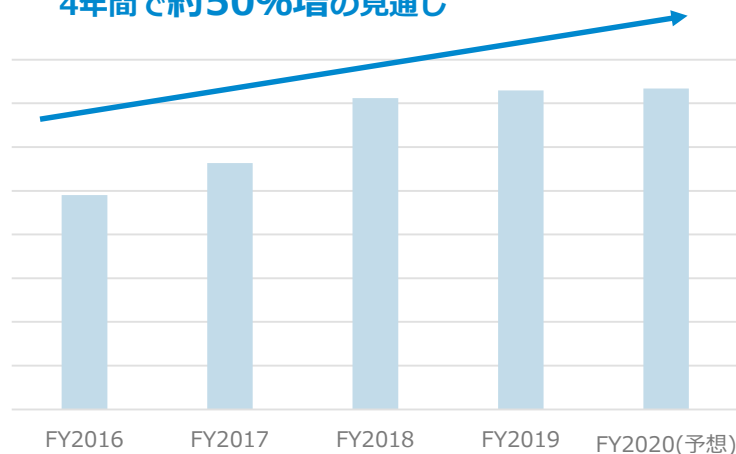
メタノール : メタノール市況1\$/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

## 参考：芳香族アルデヒドが香料、添加剤用途で伸長中

- ◆ 取り扱いの難しい超強酸HF-BF<sub>3</sub>触媒による独自製法により、高純度品を効率的に生産。
- ◆ 触媒が装置内で回収・再利用されるため、廃棄物が少なく環境面でも優れる。
- ◆ 当社でしか製造できない品種も含め、10種類以上のアルデヒドを生産・販売。
- ◆ 樹脂添加剤、香料、医農薬など多様な用途へ展開。

芳香族アルデヒド 売上高推移

4年間で約50%増の見通し



樹脂添加剤用途



香料用途

### 今後の増産計画

- ・ 2022年にボトルネック解消工事を実施。
- ・ 新装置建設についても、2023年稼働を目標に投資額を精査中。

参考：半導体向け製品「超純過酸化水素」「BT材料」の海外展開

生産拠点のグローバル展開 ～2019年度以降能力増強を加速～

●● 増設・新設工場 ○○ 既存工場

**韓国**  
超純過酸化水素生産  
年間19.2万トン  
→28.2万トン  
(47%増)  
2019年増設完了

**日本** (四日市、山北、佐賀)  
超純過酸化水素生産  
年間計6.1万トン

**日本** (白河)  
BT材料のマザー工場

**タイ**  
BT材料の生産  
2022年に向けて  
生産能力増強中

**シンガポール**  
超純過酸化水素生産  
年間1万トン

**台湾**  
超純過酸化水素生産  
年間6.1万トン  
原料過酸化水素  
2023年  
工場操業開始予定

超純過酸化水素  
MGCグループ



世界シェア  
※当社推定

BT材料  
MGCグループ



世界シェア  
※当社推定

**米国**  
超純過酸化水素生産  
年間計 7万トン  
→14万トン(倍増)  
2019年増設完了

## 参考：台湾で原料過水から超純過水までの一貫生産体制を構築 ～電子産業向け超純過水事業の世界戦略を加速～

当社は、超純過酸化水素（以下、超純過水）事業の更なる伸長を目指し、台湾子会社における工業用過酸化水素（以下、工業過水）製造設備の建設を決定しました。

超純過水は、主に半導体のウエハやデバイスの製造工程で使用されます。

当社グループは超純過水において世界トップのシェアを持ち、世界最高レベルの品質とそれを保証する分析・品質保証体制を有するリーディングカンパニーとして、多くの顧客と取引を拡大してまいりました。

台湾では高品質な超純過水の需要が急増しています。今回建設する工業過水製造設備から稼働中の超純過水設備へ原料を供給することで、原料となる工業過水から超純過水までの現地一貫生産体制および供給安定性・高品質・コスト競争力を伴った超純過水の製造販売を実現します。

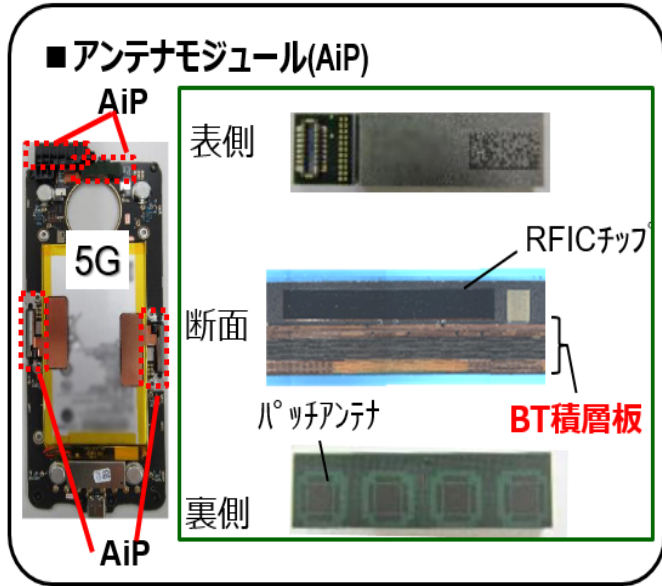
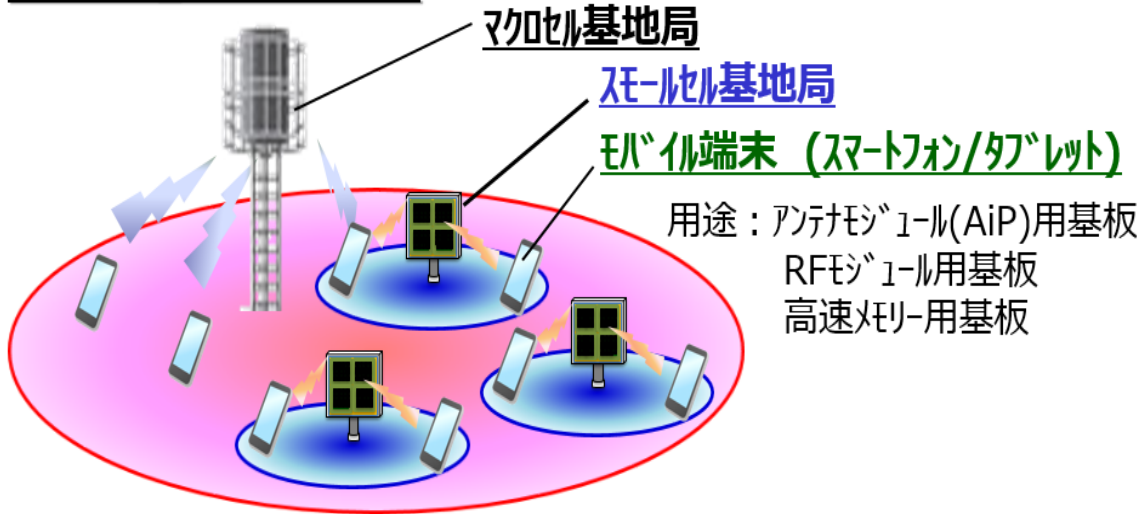


当社グループの台湾子会社



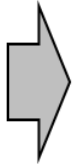
参考：5Gで伸長するBT材料～アンテナインパッケージへの採用例～

5G通信 無線ネットワーク



**5G通信技術**

- ・超高速(大容量)
- ・多数同時接続
- ・超低遅延



**通信信号の高周波化**

- ・Sub 6 (~6GHz)
- ・ミリ波 (~28GHz, 39GHz)

高周波化 ⇒ 信号損失の増大



**基板への要求**

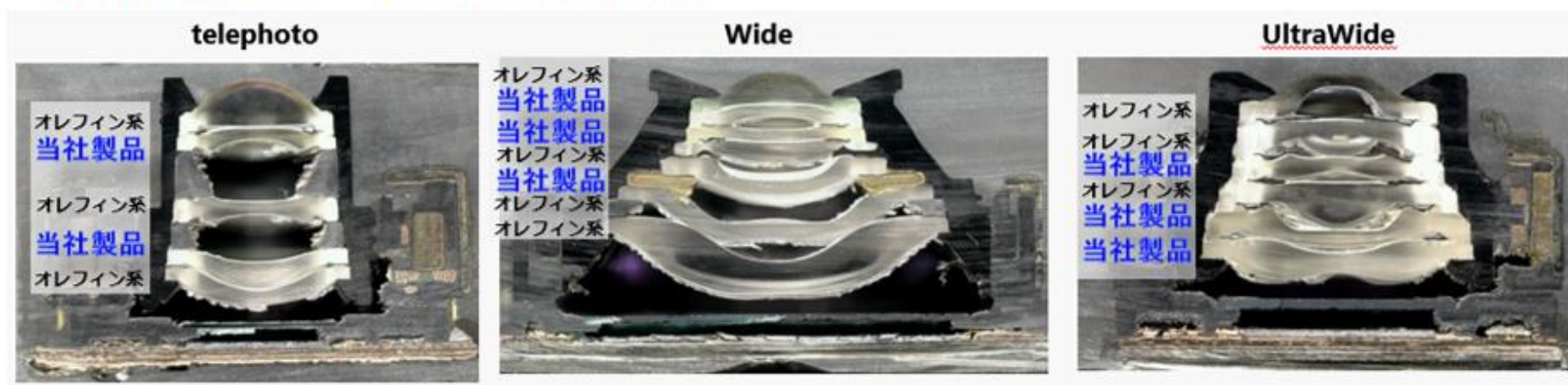
- ・低損失(低誘電率、低誘電正接)
- ・低背化(低誘電率、薄葉技術)

## 参考：光学樹脂ポリマー ～最新のスマホカメラレンズへの採用例～

スマートフォンのカメラモジュールの薄型化、高精細化が進行中



### 最新の3眼スマートフォン分析事例



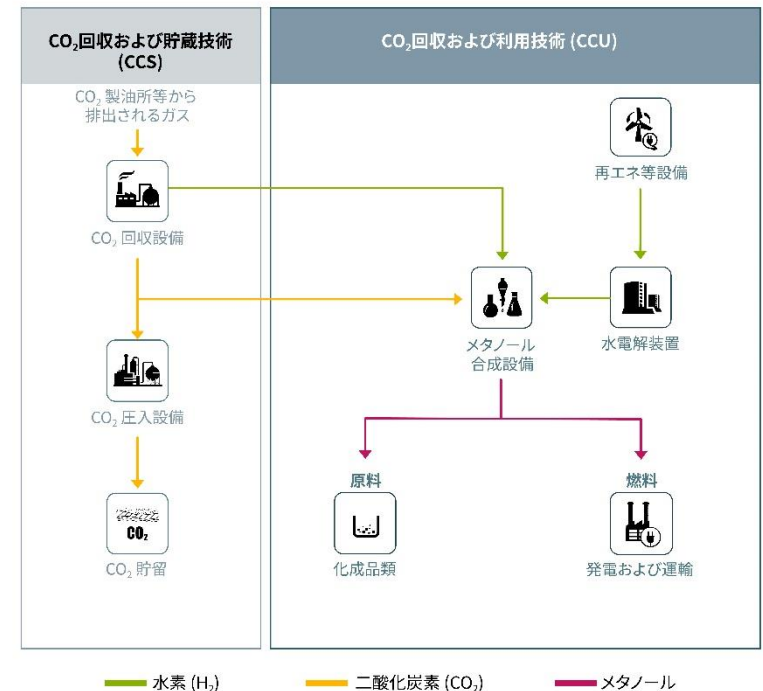
- カメラは屈折率の低い材料と屈折率の高い材料の組み合わせで構成
- 高画素化のために、レンズの使用枚数を増やす傾向にある
- 厚みを薄くするために、**より屈折率の高い材料が必要とされている。**  
→当社材は屈折率が非常に高く、スマートフォンの薄型化に貢献

## 参考：「メタノール等の基幹物質の合成によるCO2有効活用に関する調査事業」に採択

当社、三菱日立パワーシステムズ(現：三菱パワー)および三菱重工エンジニアリングは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募した「苫小牧のCO2貯留地点におけるメタノール等の基幹物質の合成によるCO2有効活用に関する調査事業」に採択されました。

今回の調査事業では、製油所から回収されたCO2を原料にメタノールを合成することを想定し、CCUの実現(回収CO2からメタノールを合成するCO2利用/CCU：CO2 Capture and Utilization)に必要な技術的調査を行います。また、カーボンリサイクルメタノールの事業化と脱炭素社会に必要なイノベーションの創出を目指します。

調査結果は、将来的には多様なCO2排出源に適用できるものです。当社は、環境保全と経済発展が両立する持続可能な社会の実現に向けて、CO2削減の取り組みに積極的に貢献していきます。



### CSRサイト (WEB) リニューアルのお知らせ

ESGに関する情報を、より詳細にかつ網羅した形に当社CSRサイトを全面的にリニューアルいたしました。ESG投資の観点からも是非ご活用下さい。 <https://www.mgc.co.jp/csr>



## お問い合わせ先

**三菱ガス化学株式会社**

**CSR・IR部 IRグループ**

TEL 03-3283-5041

<https://www.mgc.co.jp>

### < 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

### IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、メールでお知らせいたします。  
ぜひご登録ください。





社会と分かち合える価値の創造

 三菱ガス化学株式会社